

高・大・一般 漢字（草書）

長野 竹軒

十七帖（王羲之）
⑫



甚遅見卿



〈解説〉

今年度は「十七帖」の上野本を取り上げてきました。今月の四文字で「十七帖」の学習は最終回になります。以前にも解説しましたが、「断筆」の部分の一つの動きで書くことに注意してください。今月も「甚」の後半の箇所は断筆表現をしないで続けて運筆するようにしましょう。

半紙に四文字の課題です。共通の学習ポイントが調和するように心掛けましょう。

〈学習上の留意点〉

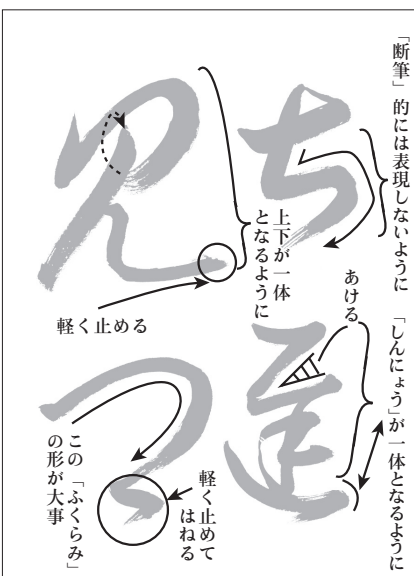
「見」以外の三文字は大変難しく、また覚えにくい文字です。特に最後の「卿」の字形は大変難しいため、正しく覚えていただきたい文字の一つです。少し細めの線で全体が統一するように心掛けましょう。

「甚」：後半の筆使いに注意する。

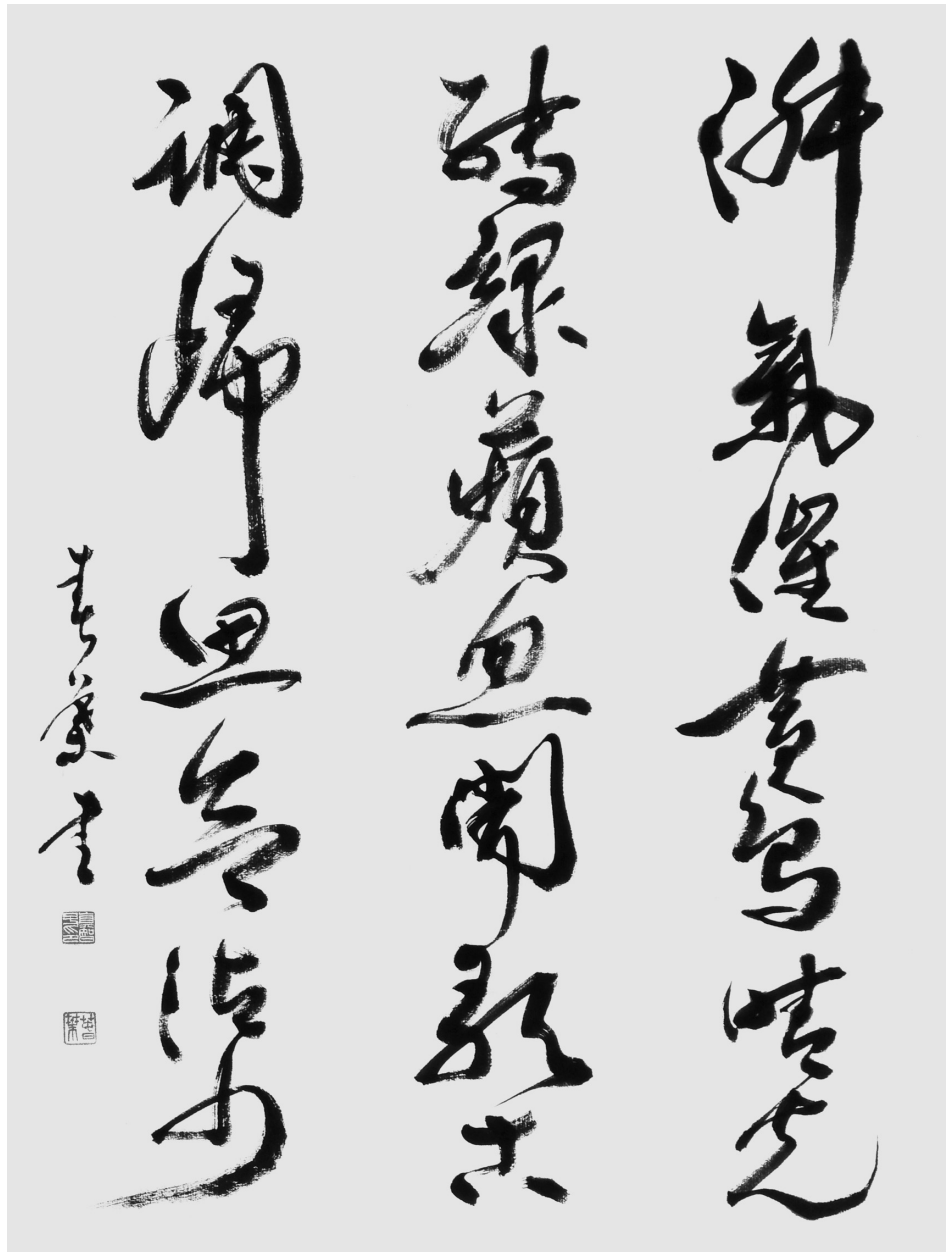
「遅」：草書体の字形をしっかりと捉えて表現する。

「見」：最後まで運筆の呼吸に注意する。

「卿」：平仮名の「つ」にならないように注意して書く。



高・大・一般 漢字



〔積文〕 淑氣催黃鳥 晴光轉綠蘋

忽聞歌古調 歸思欲沾巾

〔読み〕 淑氣 黃鳥を催し

晴光 緑蘋に転す

忽ち古調を歌うを聞き

歸思 巾を沾さんと欲す

〔出典〕 和晋陵陸丞早春遊望（杜審言）

（晋陵の陸丞の「早春遊望」に和す）

〔大意〕 うららかな気候は鶯にさえすること

を促し、明るい日さしは緑の浮草と共に揺れ動

く。この時、ふとなつかしい調べの歌を聞いて、

故郷恋しさに私は袖を濡らさんばかりになった

ことであった。

〈留意点〉

・使用する筆や用紙の特質を活かして、細部にはあまり拘ることなく、気脈の首尾一貫に留意して書く。

・一行目は、大小の変化を大きく布置しているので、二行目は、比較的穏やかな行の流れを心掛けて筆を運ぶ。

・隣り合う行が互いに「響き合う」ように潤渴・大小・太細・緩急等を工夫する。

・紙面と文字の大きさに配慮し、行間の余白が活きるように書く。

・「淑」「歸（歸）」の長い縦画の表情を変えて書くようにする。

〈提出用紙〉

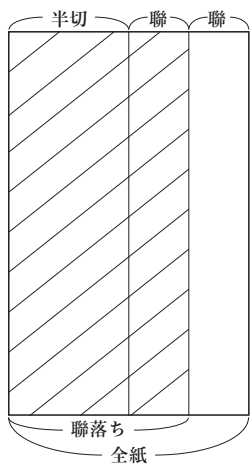
a 三行書 (1) 範例

(2) 書体自由

半切1/3又は聯落ち1/2

b 二行書 書体自由 半切又は半切1/4（ハツ切）

小画仙紙全判



全紙	よこ	たて
半切	約70cm	約135cm
聯落ち	約35cm	約135cm
聯	約52.5cm	約135cm
	約17.5cm	約135cm

辻 眞智子